

2021年度

ALL DOSHISHA 教育推進プログラム

産官学連携を中核とした キャリア形成プログラム

大学院という専門家集団の中での抽象的な議論は、
「知」を深めていくためには不可欠なプロセスです。

でも、学術的なテーマも根本的には「現実」の中に問題を見出し、
解決していくためにあるはず。

とりわけ経済学は、社会の課題にどう答えるかが問われる学問です。

「産学連携キャリア形成プログラム」では、

企業や地域経済といった実社会をケースとしたプログラムを実践することで、
社会人基礎力や問題発見・解決能力を養うとともに、
研究活動のモチベーションを喚起するものです。

MISSION 1 鶴見製作所に「東南アジア市場に対する戦略」を提案せよ!

ポンプ製品を中心に製造販売を行う株式会社鶴見製作所。「Amenity(快適)」と「-ics(学術・技術の接尾語)」を組み合わせた造語「Amenics」を企業方針に掲げています。今回、学生グループは「ベトナム市場に対して鶴見製作所がとるべき戦略は?」とのテーマを設定。今後の事業展開への提案に取り組みました。「Amenicsの実現に向けて〜ベトナムから世界へ〜」と題したプレゼンテーションを実施し、高い評価を得るとともに貴重な意見もいただきました。

課題 1

ベトナム市場をターゲットに下水道関連の市場調査を行い、その結果を分析して考察せよ!



STEP 1

ベトナムの下水状況を調査

ベトナムでは、2005年に環境保護法が改正され排水の管理に関する規制が強化されました。ただ、下水道整備は東南アジアの中でも遅れており人口比率に対して1.7%の普及に留まります。また、地域によっても差があり、下水道以外では、くみ取り式や浄化槽、中でもセプティックタンク(腐敗槽)と呼ばれる、簡易な汚水処理装置に汚水を溜めてバクテリアによって浄化し海や川に排出する仕組みが一般的だということが分かりました。

STEP 2

結果を踏まえて市場の可能性を考察

調査の結果から、ベトナムにおける下水道整備は発展途上にあることが、浮き彫りになりました。つまり、下水処理施設の整備に関しては十分な伸びしろがあり、水・衛生分野における世界トップクラスの日本のODA(政府開発援助)を活用した事業による勝機が見いだせるということです。人口の増大や都市化などによって今後見込まれる高い成長性により、ベトナムでのビジネスチャンスは充分にあるとの結論に至りました。

課題 2

「課題1」で導き出した考察を踏まえて、どうすれば競合他社と差別化できるのか、ベトナム市場に対して鶴見製作所が取るべき戦略を考えよ!



STEP 3

競合他社との差別化に関する市場調査を実施

競合他社との差別化を考える準備段階として、鶴見製作所の強みや弱みを把握し、課題提示することを目的に、ベトナムで営業展開する他企業の事業内容を分析。ODAの競合になる可能性の高い国内外の企業を調査することになりました。これにより、ベトナムでのコストパフォーマンスに優れていることが、鶴見製作所の強みであることが分かりました。

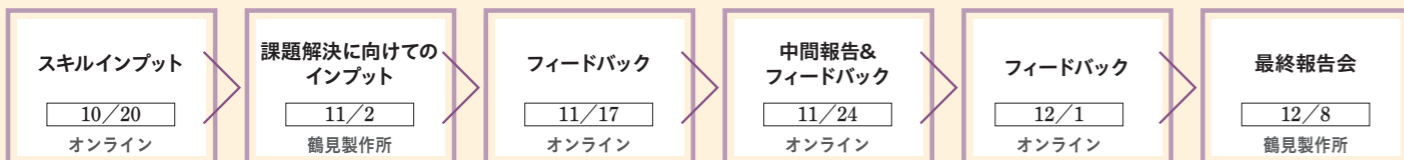
STEP 4

ベトナム市場に対応した戦略提案

調査から判明した強みを活かし、ODAによる下水処理支援へのアプローチが効果的と考えた学生グループは、関係するプラント設計会社に納入先を絞り、採用されやすいポンプの提供方法を考えることになりました。具体的な戦略を、「浄化槽+総合水事業」と「浄化槽用ポンプ+総合水事業会社設立」の「鶴見式ダブルオプション」として考案。こうしたベトナムでの戦略を通じて、「Amenics」の世界進出の足がかりとする提案を行いました。

※学生による調査結果のため、一部の数値やデータが実際と異なる場合があります。

WORK FLOW 2021年度スケジュール



MISSION 2

京都府丹後地域の人口増加や経済活性化を促す具体案を提案せよ!

2018年度の実施から4年目となる本プログラム。2021年度は、5つの企業と自治体を交えて、京都府丹後地域の地域経済をモデルに、自治体や団体と連携し課題解決に取り組むプログラムを実施しました。実社会で活躍する企業や自治体のメンターの方々や、同志社大学経済学研究科の教員によるフィードバックの下、A~Eの5つのチームに分かれた30名の学生が、具体的な問題発見や課題設定、解決策の立案に取り組みました。

A~Cチームのテーマ

Uターン者、Iターン者の促進に向けた課題の把握とプロモーション方法の検討

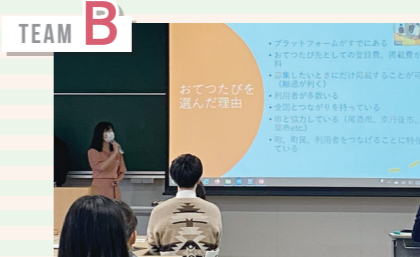
対象自治体 宮津市



子育て世代の交流の場を開設

20代から30代の若い層、特に子育て世代をターゲットに、民間企業の資金やノウハウを活用した交流の場「Park - PFI」を発売。「宮津市SEA-Tingパーク」と題して、食と海をテーマにしたアクティビティ施設などの提案を行いました。

対象自治体 伊根町



既存の取り組みをうまく活用

移住に前向きで伊根町に住みながら仕事を継続できる、または、クリエイティブな働き方ができる方々を想定し企画を考案。他地域で実績のある総務省の「地域おこし協力隊」と民間で行っている「おてつたび」の導入を提案しました。

対象自治体 与謝野町



教育の充実を図り移住を促進

自然豊かな環境で子どもを育てたい都市部のファミリー層を対象に絞って企画を提案。「同志社×ICT教育×自然」を基盤にした学習サポートを行うことで教育の充実を目指し、IターンやUターンの促進を図ることを提言しました。

テーマ eバイクツーリズムに向けたコース分析とプロモーション方法の検討

対象自治体 丹後広域



「e-Bike」とトレンドのコラボ

アップダウンのある丹後半島の移動手段に便利な、電動アシスト自転車「e-Bike」のレンタルサービスに注目。主に社会人向けに、e-Bike利用者とトレンドのグランピングを結びつけ、交流人口の増加や経済活性化を目指しました。

テーマ 丹後いちおし食材を活用した若者向けプロモーション戦略の検討

対象自治体 丹後広域



特産有機野菜で「丹後ファン」を獲得

丹後の食材はカニなど高級イメージが強く、アピールできる層に偏りが見られます。そこで、特産の有機野菜に注目し、地元農家からオンラインで定期購入できる仕組みを整えることで次世代を含めたファンを増やす企画を考えました。

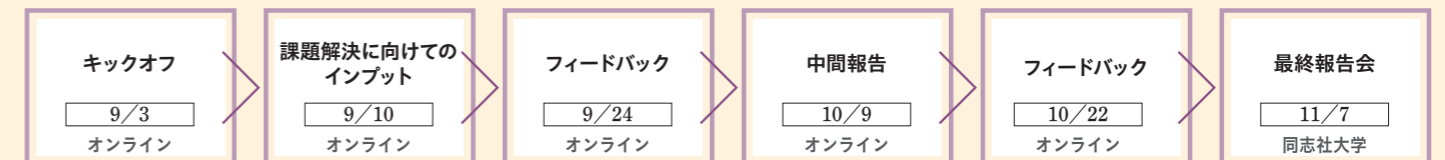
ご協力いただいた企業

- パナソニック株式会社
- 京セラ株式会社
- 川崎重工業株式会社
- 株式会社村田製作所
- 日本ガイシ株式会社

ご協力いただいた自治体

- 京都府丹後広域振興局
- 京都府伊根町
- 京都府宮津市
- 京都府与謝野町
- 海の京都DMO

WORK FLOW 2021年度スケジュール



創立150周年を迎えるにあたり、
本学は「同志社大学ビジョン2025」を掲げました。
本学がこのビジョンを着実に進め、今後も社会で活躍する
自治自立の人物を輩出し続けるためには、
教育を提供する各学部及び研究科の教育研究の
さらなる充実が不可欠であり、
学部・研究科の改革と新たな挑戦を支援する
教学マネジメントが求められています。
「ALL DOSHISHA教育推進プログラム」では、
学部及び研究科から、本学がビジョンにおいて掲げた
テーマに即した質の高い教育プログラムの提案を求め、
大きな成果が期待できる取組に対して事業経費の
一定額を大学が負担し、その事業の推進を支援します。
そこで得られた様々な教育効果を改めて分析・共有し、
本学の教育研究力の向上に役立て、
次代の人物を養成するプログラムを
新たに構築していきます。

ALL DOSHISHA 教育推進プログラム

経済学研究科

プログラムの概要

質を担保した人物の育成

- ・グローバル化への対応
- ・専門分野の知識習得

キャリア選択機会の増加

- ・就職ミスマッチの解消
- ・就「社」活動からの脱却

学生

正規科目

外部評価

経済学
研究科

課外講座

教員

©2022 Doshisha University

プログラムへの参加を通して見つけたのは、自分自身の課題、そして強み。

テイ リキホウ 鄭 力萌



経済学研究科
博士課程(前期課程) 1年次生

チームワークの経験と課題解決力を身に付けるため、今回のプログラムに参加しました。私たちのチームは丹後地域のe-Bikeツーリズムに関する課題解決に取り組みました。多くの方からのフィードバックを元により良い提案を行うことができ、良い成果を得ることができました。実際の課題を取り上げ、思考力を高める中、メンバーや、社会人の方と交流することで、人との関わりが貴重な経験であると感じました。また、チームで協力することによって、自己認識を深めることにも繋がりました。

ニシモト ケンイチ 西本 賢一



経済学研究科
博士課程(前期課程) 2年次生

私は本プログラムで下水道に用いるポンプを途上国に普及させるビジネスモデルを提案しました。参加のきっかけはビジネスに関する視野を広げたかったからです。最初はポンプに関する専門的な知識の習得に苦心しましたが、国や企業が公開している資料を精読することで知識の補填に努めました。本プログラムを通じて、ただ思考のフレームワークを学ぶだけではなく、それを実践で使いこなすためのノウハウを学びました。ここで培った視点をこれから更に生かしていきたいです。

※取材対象者の学年は、プログラム参加時のものです。